

- ・看護学科
1年生 31 単位、2 年生 36 単位、3 年生 37 単位、4 年生 21 単位
- ・リハビリテーション学科 理学療法専攻
3 年生 18 単位、4 年生 4 単位
- ・リハビリテーション学科 作業療法専攻
3 年生 19 単位、4 年生 4 単位
- ・リハビリテーション学科 先進理学療法コース
1 年生 18 単位、2 年生 31 単位
- ・リハビリテーション学科 先進作業療法コース
1 年生 18 単位、2 年生 31 単位

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

藤田医科大学ホームページにて公表

【医学部】

<https://www.fujita-hu.ac.jp/faculty/medicine/syllabus/>

【医療科学部】

<https://www.fujita-hu.ac.jp/faculty/health-sciences/syllabus.html>

【保健衛生学部】

<https://www.fujita-hu.ac.jp/faculty/healthcare/syllabus.html>

3. 要件を満たすことが困難である学部等

学部等名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	藤田医科大学
設置者名	学校法人 藤田学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

藤田学園ホームページにて公表
<https://academy.fujita-hu.ac.jp/about/officer.html>

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	医院開業	2024.10.2～2027 年度定時評議員 会終結の時	標準的一般診療
非常勤	元) 総合病院 院長	2024.10.2～2027 年度定時評議員 会終結の時	科学研究
非常勤	元) 自動車会社 顧問	2024.10.2～2027 年度定時評議員 会終結の時	経営
非常勤	看護大学 学長	2024.10.2～2027 年度定時評議員 会終結の時	研究
(備考)			

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	藤田医科大学
設置者名	学校法人 藤田学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

- | |
|---|
| 1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。 |
|---|

(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)

【医学部】

学生の卒業時における質の確保を図るため、卒業認定・学位方針(ディプロマ・ポリシー)及び教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)を踏まえ、当該授業科目との整合性・関連(役割)に基づいた授業計画と科目間の繋がりを示す「カリキュラムマップ」を作成、科目ごとに講義の目的を示す「教育目標」、身につける能力を示す「学修目標」および講義毎の「到達目標」、「評価方法」および「評価基準」、課題の「フィードバックの方法」、「講義形式」、「事前事後学修の時間数と内容」、「オフィスアワー」等を明示しシラバスに反映している。

シラバスの作成においては、整合性・妥当性・適切性等について教務委員長による第三者チェックを行っている。

作成したシラバスは、藤田医科大学ホームページ及び学生ポータルサイトで公開している。

【医療科学部】

学生の卒業時における質の確保を図るため、卒業認定・学位方針(ディプロマ・ポリシー)及び教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)を踏まえ、当該授業科目との整合性・関連(役割)に基づいた「授業計画書(シラバス)」および各授業科目間の対応関係や履修・学修における道筋を示した「履修系統図」を作成している。

また、各講義の「到達目標」、「評価方法」および「評価基準」、課題の「フィードバックの方法」、「講義形式」、「事前事後学修時間とその内容」、「オフィスアワー」等をシラバスに明示している。

シラバスの作成においては、シラバスの作成方法に関するFDを実施している。また、分野長及び教務委員にて、編集上のチェックに留まらず、カリキュラム方針に基づき各科目の内容が適正であるか第三者チェックを行っている。

作成したシラバスは、藤田医科大学ホームページ及び学生ポータルサイト(学生向け学務情報提供サイト)で毎年、年度始めに公開している。

【保健衛生学部】

学生の卒業時における質の確保を図るため、卒業認定・学位方針(ディプロマ・ポリシー)及び教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)を踏まえ、当該授業科目との整合性・関連(役割)に基づいた授業計画と図示した「履修系統図」を作成、科目ごとに講義の目的を示す「教育目標」、身につける能力を示す「学修目標」および講義毎の「到達目標」、「評価方法」および「評価基準」、課題の「フィードバックの方法」、「講義形式」、「事前事後学修の時間数と内容」、「オフィスアワー」、等をシラバスに明示している。

シラバスの作成においては、シラバスの作成方法に関するFDを実施している。また、各学科長及び教務委員にて、編集上のチェックに留まらず、カリキュラム方針に基づき各科目の内容が適正であるか第三者チェックを行っている。

作成したシラバスは、藤田医科大学ホームページ及び学生ポータルサイト(学生向け学務情報提供サイト)で毎年、年度始めに公開している。

授業計画書の公表方法	<p>藤田医科大学ホームページで公表</p> <p>【医学部】 https://www.fujita-hu.ac.jp/faculty/medicine/syllabus/</p> <p>【医療科学部】 https://www.fujita-hu.ac.jp/faculty/health-sciences/syllabus.html</p> <p>【保健衛生学部】 https://www.fujita-hu.ac.jp/faculty/healthcare/syllabus.html</p>
<p>2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。</p>	
<p>(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)</p> <p>【医学部】</p> <p>学生の評価についての原理、方法および実施について、藤田医科大学学則(P8、第 27 条～第 30 条)、藤田医科大学医学部規程(P1、第 5 条～第 7 条)、藤田医科大学医学部試験に関する規程、各学年のシラバスに記載されている。</p> <p>履修科目は 100 点満点で採点され、S(90 点以上 100 点以下)、A(80 点以上 90 点未満)、B(70 点以上 80 点未満)、C(60 点以上 70 点未満)、D(60 点未満)で評価し、60 点以上が合格である(藤田医科大学医学部規程第 5 条)。</p> <p>また、履修科目の成績判定には、試験の成績に受講および実習態度を加味して判定する(藤田医科大学医学部試験に関する規程第 6 条)。試験の方法は筆答、口答、レポート提出、実地試問等である(同第 3 条)。</p> <p>各科目の成績判定方法は、各学年のシラバスに明示し、各々の到達目標、評価法、評価基準に基づき学修成果を測定し、厳格かつ適正に単位を授与している。</p> <p>【医療科学部】</p> <p>授業計画(シラバス)に記載している到達目標、評価法、評価基準に基づき、学修成果を測定している。</p> <p>(到達目標)授業科目を学生が学修することにより成果として得られる知識・理解、思考・判断、関心・意欲、技能・表現などの面での到達目標を授業計画(シラバス)に記載している。また、学修可視化システム(Assessmentor)を利用して、学年ごとに学生自身が到達目標を設定、その目標に対する自己評価を実施している。明確な目標に対する成果を学生自身が評価・測定した内容を確認、共有することで学修への意欲や到達度を把握している。</p> <p>(評価法)授業科目の成績(評価点)は、到達目標に対する達成の度合いを示している。その度合いをどのような手法で測定するのかを表す評価手法・種別(定期試験、実技試験、受講態度、小テスト、レポート等)と、それぞれが最終評価に占める割合(%)を授業計画(シラバス)に記載している。</p> <p>(評価基準)到達目標に対して、どの評価方法を用いて到達度を測るか、さらに達成の度合いを測定するポイントなどを授業計画(シラバス)に記載している。</p> <p>また、藤田医科大学学則(第 27 条～第 30 条)及び医療科学部規程に則って、厳格かつ適正に評価して単位授与している。なお、履修科目は 100 点満点で採点され、S(90 点以上 100 点以下)、A(80 点以上 90 点未満)、B(70 点以上 80 点未満)、C(60 点以上 70 点未満)、D(60 点未満)で評価し、60 点以上が合格である。</p>	

【保健衛生学部】

授業計画(シラバス)に記載している到達目標、評価法、評価基準に基づき、学修成果を測定している。

(到達目標)授業科目を学生が学修することにより成果として得られる知識・理解、思考・判断、関心・意欲、技能・表現などの面での到達目標を授業計画(シラバス)に記載している。

また、学修可視化システム (Assessmentter) を利用して、学年ごとに学生自身が到達目標を設定、その目標に対する自己評価を実施している。明確な目標に対する成果を学生自身が評価・測定した内容を確認、共有することで学修への意欲や到達度を把握している。

(評価法)授業科目の成績(評価点)は、到達目標に対する達成の度合いを示している。その度合いをどのような手法で測定するのかを表す評価手法・種別(定期試験、実技試験、受講態度、小テスト、レポート等)と、それぞれが最終評価に占める割合(%)を授業計画(シラバス)に記載している。

(評価基準)到達目標に対して、どの評価方法を用いて到達度を測るか、さらに達成の度合いを測定するポイントなどを授業計画(シラバス)に記載している。

また、藤田医科大学学則(第 27 条～第 30 条)及び保健衛生学部規程に則って、厳格かつ適正に評価して単位授与している。なお、履修科目は 100 点満点で採点され、S(90 点以上 100 点以下)、A(80 点以上 90 点以下)、B(70 点以上 80 点未満)、C(60 点以上 70 点未満)、D(60 点未満)で評価し、60 点以上が合格である。

3. 成績評価において、GPA 等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。

(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)

【医学部】

個々の学生の成績が各学年において、どの位置にあるのか把握できるよう、授業科目ごとの成績評価を点数に換算し、それらの平均点を求める仕組みを導入している。1 科目だけ及第点に届かず進級が危ぶまれる場合でも、その他の科目が優秀であるケースについては、GPA も考慮した進級判定を行うことで客観的に学生を評価し、学生本人のモチベーションを維持することが可能になっている。これにより、教員の恣意的評価の抑制効果もある。GPA の算出方法は以下の通りであり、各学年のシラバスに明記し、ホームページ上で公表している。

<算出方法>

評価	GP	成績
S	4	90 点～100 点
A	3	80 点～89 点
B	2	70 点～79 点
C	1	60 点～69 点
D	0	60 点未満
F	0	無資格

GPA =
$$\frac{[\text{科目の単位数} \times \text{当該科目の GP}]}{\text{科目の単位数合計 (D, F を含む)}}$$

【医療科学部】

各学生の成績が在籍する学科・学年において、どの位置にあるのか把握することができるよう、全履修科目の成績評価を点数化(100 点満点)し、全履修科目の合計点の平均を算出、順位付けを行っている。また、GPA の活用により、学生の学修意欲を高めるとともに、本学における教育の質の保証について一層の具体化を進め、適切な修学指導を資することを目的とし、GPA を導入している。

なお、評価及び GP の算出方法については以下のとおり。

評語	GP (評価点)	100点満点での評点範囲	評価基準
S	4	100～90点	到達目標を達成し、極めて優秀な成績をおさめている
A	3	89～80点	到達目標を達成し、優秀な成績をおさめている
B	2	79～70点	到達目標を達成している
C	1	69～60点	到達目標を最低限達成している
D	0	60点未満	到達目標を達成していない
F	0	無資格科目	科目授業時間数の3分の1を超えて欠席した科目
N	—	認定科目	他大学等で修得した単位を本学において修得したものとみなすと判断された科目

$$\text{GPA} = \frac{(\text{Sの修得単位数} \times 4) + (\text{Aの修得単位数} \times 3) + (\text{Bの修得単位数} \times 2) + (\text{Cの修得単位数} \times 1) + (\text{D, Fの単位数} \times 0)}{\text{総履修登録単位数 (D、Fの単位数も含む)}}$$

また、GPA については、履修案内において、公表している。

【保健衛生学部】

各学生の成績が在籍する学科・学年において、どの位置にあるのか把握することができるよう、全履修科目の成績評価を点数化(100 点満点)し、全履修科目の合計点の平均を算出、順位付けを行っている。また、GPA の活用により、学生の学修意欲を高めるとともに、本学における教育の質の保証について一層の具体化を進め、適切な修学指導を資することを目的とし、GPA を導入している。

なお、評価及び GP の算出方法については以下のとおり。

評語	GP (評価点)	100点満点での 評点範囲	評価基準
S	4	100 ～ 90点	到達目標を達成し、極めて優秀な成績をおさめている
A	3	89 ～ 80点	到達目標を達成し、優秀な成績をおさめている
B	2	79 ～ 70点	到達目標を達成している
C	1	69 ～ 60点	到達目標を最低限達成している
D	0	60点未満	到達目標を達成していない
F	0	無資格科目	科目授業時間数の3分の1以上を欠席した科目
N	—	認定科目	他大学等で修得した単位を本学において修得したものとみなすと判断された科目

$$\text{GPA} = \frac{(\text{Sの修得単位数} \times 4) + (\text{Aの修得単位数} \times 3) + (\text{Bの修得単位数} \times 2) + (\text{Cの修得単位数} \times 1) + (\text{D, Fの単位数} \times 0)}{\text{総履修登録単位数}^{\ast} \quad \ast \text{D, Fの単位数も含む}}$$

また、GPA については、授業計画(シラバス)及び学生便覧において、公表している。成績分布の状況把握については、本学は IR 推進センターを設置しており、学生の成績分布状況を含め、あらゆる教学面の分析を学部教員とともに推進している。

客観的な指標の 算出方法の公表方法	<p>藤田医科大学ホームページで公表</p> <p>【医学部】 https://www.fujita-hu.ac.jp/faculty/medicine/syllabus/dubv6r0000001bpn-att/j93sdv0000002jcd.pdf</p> <p>【医療科学部】 上記内容を記載した履修案内を入学時に配布している。</p> <p>【保健衛生学部】 https://www.fujita-hu.ac.jp/faculty/healthcare/syllabus.html</p>
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	
<p>(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)</p> <p>【医学部】 大学の教育理念に基づき、卒業認定・学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)を策定し、卒業認定に関する方針の具体的な内容及び適切な実施については、「藤田医科大学学則」および「藤田医科大学医学部規程」に則って医学部の定める授業科目をすべて履修し、卒業試験のほか医学部の指定する試験に合格した者に卒業資格を与えている。卒業試験は、その試験の難易度や、その他一切の事情等を総合的に評価した上で可否を判定する。卒業認定に関する方針は、各学年のシラバスに明記され、ホームページ及び学生ポータルサイト上で公表している。</p> <p>【医療科学部】 大学の教育理念に基づき、卒業認定・学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)を策定している。 卒業の認定に関する方針の具体的な内容及び適切な実施については、藤田医科大学学則に則って行っており、卒業要件(卒業必須単位)等、総合的に評価し、教授会において卒業認定を行い、学長に承認を得ている。 また、卒業認定に関する方針の公表については、藤田医科大学学則を藤田医科大学ホームページ及び学生ポータルサイト(学生向け学務情報提供サイト)にて公表している。</p> <p>【保健衛生学部】 大学の教育理念に基づき、卒業認定・学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)を策定している。 卒業の認定に関する方針の具体的な内容及び適切な実施については、藤田医科大学学則に則って行っており、卒業要件(卒業必須単位)等、総合的に評価し、教授会において卒業認定を行い、学長に承認を得ている。 また、卒業認定に関する方針の公表については、藤田医科大学学則を藤田医科大学ホームページ及び学生ポータルサイト(学生向け学務情報提供サイト)にて公表している。</p>	
卒業の認定に関する 方針の公表方法	<p>藤田医科大学ホームページで公表</p> <p>【医学部】 https://www.fujita-hu.ac.jp/faculty/medicine/syllabus/dubv6r0000001bpn-att/j93sdv0000002jcd.pdf</p> <p>【医療科学部】 https://www.fujita-hu.ac.jp/faculty/health-sciences/about.html</p> <p>【保健衛生学部】 https://www.fujita-hu.ac.jp/faculty/healthcare/about.html#hdg4</p>

様式第2号の4-①【(4)財務・経営情報の公表(大学・短期大学・高等専門学校)】

※大学・短期大学・高等専門学校は、この様式を用いること。専門学校は、様式第2号の4-②を用いること。

学校名	藤田医科大学
設置者名	学校法人 藤田学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	藤田学園ホームページで公表 https://academy.fujita-hu.ac.jp/disclosure/enterprise.html
収支計算書又は損益計算書	藤田学園ホームページで公表 https://academy.fujita-hu.ac.jp/disclosure/enterprise.html
財産目録	藤田学園ホームページで公表 https://academy.fujita-hu.ac.jp/disclosure/enterprise.html
事業報告書	藤田学園ホームページで公表 https://academy.fujita-hu.ac.jp/disclosure/enterprise.html
監事による監査報告(書)	藤田学園ホームページで公表 https://academy.fujita-hu.ac.jp/disclosure/enterprise.html

2. 事業計画(任意記載事項)

単年度計画(名称:	対象年度:
公表方法:	
中長期計画(名称:	対象年度:
公表方法:	

3. 教育活動に係る情報

(1) 自己点検・評価の結果

公表方法: 藤田医科大学ホームページでの公表 (https://www.fujita-hu.ac.jp/about/appraisal.html)

(2) 認証評価の結果(任意記載事項)

公表方法:

(3) 学校教育法施行規則第 172 条の 2 第 1 項に掲げる情報の概要

①教育研究上の目的、卒業又は修了の認定に関する方針、教育課程の編成及び実施に関する方針、入学者の受入れに関する方針の概要

学部等名 医学部
教育研究上の目的（公表方法：藤田医科大学ホームページで公表 https://www.fujita-hu.ac.jp/faculty/medicine/outline.html ）
<p>（概要）</p> <p>藤田医科大学は、建学の理念に「独創一理」を掲げている。「独創一理」とは「独創的な学究精神を堅持して真理を探究し、おおらかな誇りを持ち、感激性に富む、個性豊かな人格を形成する」ことをめざすものである。本学医学部は、患者中心のチーム医療の担い手として、リサーチマインドと国際的視野を有する人間性豊かな「良き臨床医」の育成をめざしている。</p>
卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：藤田医科大学ホームページで公表 https://www.fujita-hu.ac.jp/faculty/medicine/outline.html ）
<p>（概要）</p> <p>藤田医科大学医学部は、「独創的な学究精神を持った謙虚で誠実な医師」となるため、所定の課程を修め医学部卒業コンピテンス・卒業コンピテンシーに定める能力を身につけた者に対して、学士（医学）の学位を授与している。</p>
教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：藤田医科大学ホームページで公表 https://www.fujita-hu.ac.jp/faculty/medicine/outline.html ）
<p>（概要）</p> <p>藤田医科大学医学部は、以下の方針に基づいてカリキュラムを作成し、実施する。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 建学の理念である独創一理を体現する学生を養成するため、卒前から卒後に至るまで一貫した、学修成果基盤型の医学教育を行う。2. 適切に水平的、又は、垂直的に統合したカリキュラムを提供する。3. 教養、基礎、臨床、社会医学及び情報・科学技術の知識を有し、これらを応用できる教育課程を①～③の 3 つの系統に分けて編成し、段階的に提供する<ol style="list-style-type: none">① 医・人間学系では、情報・科学技術、自発的に学修に取り組む技術と能力を修得する準備教育、並びに多様な価値観及び文化の理解に繋がる学修機会を提供する。② 基礎系では、生命科学であると同時に臨床医学の根幹を成す基礎医学のカリキュラムを提供する。また、地域に貢献する医療人としての見識を持ち、社会的及び国際的な観点から医療を考えるカリキュラムを提供する。③ 臨床系では、卒業時に患者及び家族に対しての共感的な態度を持ち、参加型臨床実習により確実に信頼される十分な臨床能力を修得するカリキュラムを提供する。4. 医療人としてのプロフェッショナリズムを確立するため、学習段階に応じて繰り返し学ぶカリキュラムを提供する。5. 学生が医療チームのリーダーとなる資質を備えるために、他者に共感し利他的に行動できる姿勢を修得するカリキュラムを提供する。6. 他者を尊重したコミュニケーション能力の向上を目指すカリキュラムを提供する。7. 患者、福祉関係施設利用者、家族、コミュニティの課題について、職種間でコミュニケーションをとり、共通の目的を設定して協働する姿勢を修得するカリキュラムを提供する。8. 社会に貢献する資質を養うため、災害時や国際貢献の場で必要とされることを学び実践するカリキュラムを提供する。9. 医学研究及び診療に必要な基礎的英語力を身につけるカリキュラムを提供する。10. 情報・科学技術を取り扱う際に必要な規則を理解した上で、医学や医療への適切な活

用を学ぶカリキュラムを提供する。

11. 科学的探究心の涵養のため、医学研究や最新の知見を学ぶカリキュラムを提供する。
12. 学生が省察を繰り返し、生涯にわたって学ぶ姿勢を修得するカリキュラムを提供する。
13. カリキュラムの作成には教育専門家が関与し、その学識を教育技法や評価方法の開発に利用する。
14. 人口動態や科学技術の進歩などの社会背景の変化とその予測に応じてカリキュラムを改訂する。
15. カリキュラムは、性、人種、宗教、性的指向、社会経済的状況、身体能力等によって差別されることなく、等しく提供する。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：藤田医科大学ホームページで公表
<https://www.fujita-hu.ac.jp/faculty/medicine/outline.html>）

（概要）

1. 独創的な学究精神を持った謙虚で誠実な医師の育成を使命とする藤田医科大学医学部は、卒業までに身につける能力として卒業コンピテンス・卒業コンピテンシーを定めた。本学でこれらを達成するために必要な能力・資質を有する者として、以下のような人の入学を求めている。

（ア）藤田医科大学医学部および藤田医科大学病院の理念を理解し、その発展のために尽くす決意のある人

（イ）地域の健康と福祉に貢献する熱意を有し、そのための努力を怠らない人

（ウ）職業人として長く社会に貢献する意思のある人

（エ）他の医療専門職と連携して、患者および地域住民の健康問題を解決するため、主体性を持って多様な人々と協働して学び、行動しようとする姿勢を有する人

（オ）誠実で協調性に優れ、柔軟な心と広い視野を持つ人間性あふれる人に成長していくための素直な心を持ち、努力を続けられる人

（カ）自律的に自らの健康管理、社会規範の遵守ができ、計画的な行動と多面的かつ慎重な判断ができる人

（キ）以下に代表される多面的で高い学力を有する人

英語：英語で記述された教科書や医学論文等を理解し、海外での臨床実習や国内外の国際的状況において十分なコミュニケーションが取れるようになっていくために必要な基礎的英語力

数学：論理的、数量的な思考が十分可能であることを示す数学力

国語：人間と人間との関係の中で、互いの立場や考えを尊重しながら、言語を通して円滑に相互伝達、相互理解を進めていくのに十分な国語能力と、問題を解決しようとする創造的かつ論理的な思考力

理科：自然に対する関心と探究心、観察力および実験能力を前提とした深い理解とそれらによって培われた科学的態度

地理歴史・公民：多様な価値観を有する国際社会において主体的に生きることや、生を尊べる平和で民主的な社会を形成するための資質と自覚に繋がる社会科の能力

2. 性、人種、宗教、性的指向、社会経済的状況、身体能力の如何によって、入学に関する優先性が影響されることはない。

学部等名 医療科学部
<p>教育研究上の目的（公表方法：藤田医科大学ホームページで公表 https://www.fujita-hu.ac.jp/faculty/health-sciences/about.html）</p> <p>（概要）「独創一理」の建学の理念の下に、人間の生命を尊重する高い倫理観と心豊かな幅広い人間性を培う教育を行う。 臨床検査学、臨床工学、放射線学などの専門知識と技術を修得し、先進医療科学を共創できる心優しき知的医療プロフェッショナル「良き医療人」を養成する。 多様な社会の人々の健康と医療を科学的に観察・思考し、科学的根拠に基づいた課題解決に自らの役割を柔軟に発揮できる人材を養成する。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：藤田医科大学ホームページで公表 https://www.fujita-hu.ac.jp/faculty/health-sciences/about.html）</p> <p>（概要） 医療科学部は、本学の建学の理念および学部・学科が掲げる人材の養成に関する目的に基づき、各学科で所定の課程を修め、以下に示す5つの力を身につけた者に学士の学位を授与する。</p> <p>課題を解決する力 1）幅広い教養ならびにそれぞれの専門分野の基本的な知識と技術を持ち、それを論理的に活用するために管理し、正確な情報を読み解き課題を解決する力を身につけている。</p> <p>連携する力 2）医療に関係する専門職の担い手やその恩恵に預かる人々すべてを尊重して、お互いが手を取り合い、良き医療を実践するための基本的能力を身につけている。</p> <p>自律して達成する力 3）倫理観をもっておおらかで他者を慈しみ、目的のために自身を評価・判断して行動できる能力を身につけている。</p> <p>社会に貢献する力 4）社会の一員として自らの役割を認識し、そこに住まう人々が健康と医療に満足できるように使命感をもって行動し、多様な社会に貢献する能力を身につけている。</p> <p>創造する力 5）多面的に観察・分析することにより新たな問題を発見し、それらを解決するために科学的な探究と創造的な取り組みができる能力を身につけている。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：藤田医科大学ホームページで公表 https://www.fujita-hu.ac.jp/faculty/health-sciences/about.html）</p> <p>（概要） 医療科学部は、ディプロマ・ポリシーに示した5つの力を身につけるために段階的・体系的な教育課程を編成する。 授業は講義・演習・実験・実習・実技の様々な方法・形態等により行い、学生が主体的・能動的に学ぶことを目的とする。 学修成果は、あらかじめ明示した学修目標に即して総合的に評価する。教育の内容・方法・効果に対する組織的な評価と検証を行い改善に努める。</p>
<p>入学者の受入れに関する方針（公表方法：藤田医科大学ホームページで公表</p>

<https://www.fujita-hu.ac.jp/faculty/health-sciences/about.html>)

(概要)

医療科学部は、本学の建学の理念に共感し、医療に誠実に携わることを望むものを広く受け入れる。

- 1) 健康・保健医療およびその関係する分野に高い関心をもつもの
- 2) 心豊かな人間性と幅広い教養を育み、主体性をもって他者と協働して課題に取り組む志のあるもの
- 3) 専門的な知識や技術を活かして、組織や国内外の社会に貢献しようとする志のあるもの

入学試験は多様な素養を評価するため、複数の受験機会を提供する。
なお、性、人種、宗教、性的指向、社会経済的地位や身体能力は評価しない。

(禁煙への取り組み)

藤田医科大学では、人々の健康を守る医療職者を育成する大学として、入学者は喫煙しないことを約束できる方としている。

学部等名 保健衛生学部
<p>教育研究上の目的（公表方法：藤田医科大学ホームページで公表） https://www.fujita-hu.ac.jp/faculty/healthcare/about.html#hdg4</p>
<p>（概要）</p> <p>本学の建学理念である「独創一理」を踏まえ、人間の生命を尊重する倫理観と心豊かな幅広い人間性を培い、協調性と責任感を持って看護学、リハビリテーション学各分野の知識・技術の修得をもとに、課題探求能力を育成し、専門的素養のある人材として社会に貢献できる人材を育成する。</p>
<p>卒業又は修了の認定に関する方針（公表方法：藤田医科大学ホームページで公表） https://www.fujita-hu.ac.jp/faculty/healthcare/about.html#hdg4</p>
<p>（概要）</p> <p>保健衛生学部は、本学の建学の理念および学部・学科が掲げる人材育成の目的に基づき、各学科で所定の課程を修め、以下に示す5つの能力を身につけた者に学士の学位を授与する。</p> <p>1) 自律力 人間性や倫理観を裏付ける幅広い教養を持ち、疾病予防、健康維持・増進、公衆衛生などの保健衛生に携わる医療人として自ら評価・判断して行動する能力を身につけている。</p> <p>2) 協調力 対象者ならびに関係者と分け隔てなく、適切なコミュニケーションを図り、医療、保健衛生に関わる専門職と連携・協働し、自身の役割や責任を担い行動する能力を身につけている。</p> <p>3) 課題解決力 それぞれの専門分野で修得した基本的な知識を活用し、課題解決に創造性をもって持続的に取り組み、かつ国際的に広い視野を持ち科学的に探究する能力を身につけている。</p> <p>4) 実践力 対象者を公平かつ多面的に理解し、臨床現場で必要となる基本的な臨床技能を、対象者に適確かつ安全に提供する能力を身につけている。</p> <p>5) 地域・社会貢献力 対象者が住み慣れた地域での生活継続を可能にするため、先進医療から継ぎ目のない地域に根ざした医療、保健衛生を学修し、多様な社会に貢献する能力を身につけている。</p>
<p>教育課程の編成及び実施に関する方針（公表方法：藤田医科大学ホームページで公表） https://www.fujita-hu.ac.jp/faculty/healthcare/about.html#hdg4</p>
<p>（概要）</p> <p>保健衛生学部は、ディプロマ・ポリシーに示した5つの能力を身につけるために段階的・体系的な教育課程を編成する。また、以下に示す学修方法や学修成果の評価により、本学の建学の精神と教育理念を踏まえて、学びを進め、深めていく。</p> <p>1. 教育課程編成</p> <p>1) 看護師、保健師、理学療法士、作業療法士の各種資格課程を設置し、専門的な学びに応え、保健・医療の質向上、コミュニケーション、接遇など医療従事者に必要な能力を養成する。</p> <p>2) カリキュラムには「基礎分野」、「専門基礎分野」、「専門分野」を設置し、各科目を系統的に連結させ、体系的かつ網羅的に保健衛生学分野を学修できるようにする。</p> <p>3) 系統的・体系的なカリキュラムであることを示すための「カリキュラム・マップ」や「カリキュラム・ツリー（履修系統図）」を作成し、学修過程の整合性を示す。</p>

- 4) 講義、演習、実習ではアクティブラーニングなど多様な学修形態を活用しつつ、個別指導の充実を目指した教育を行う。多様な学びの連携を重視し、少人数学修（SGL）、問題解決型学修（PBL）、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力、ディスカッション能力、リーダーシップ、主体性、協調性などを通じて、専門性を養成する。
- 5) オンラインによる授業資料配信やポータルサイトといった多様な情報通信技術（ICT）を日常的に利活用することで、適切に ICT を利活用できる能力を養成する。
- 6) 臨地実習では、高度な最先端医療を実施する教育病院を多様な学びの場として学修し、実践能力を養成する。

2. 学修方法・学修過程

- 1) 主体的な学びの能力を高めるためにアクティブ・ラーニングを取り入れた教育を、初年次から推進する。
- 2) 学修成果可視化システム等により、自己の学修成果を把握することで、学修の目標と計画を立てて、達成と成長を実感できるようにする。
- 3) オフィスアワーや学生ポータルサイト等の ICT の利活用によって、教員と学生の双方向のコミュニケーションを密にすることで、学修成果を高める。

3. 学修成果の評価

- 1) 定期試験・レポート・実技試験等によって、学修成果の到達度を厳格に評価する。
- 2) 4年間の学修成果は、講義・演習・実習科目および臨地実習を多様な学修評価方法を用いて単位を厳格に認定し、修得単位数から成績評価値（GPA）を算出し、学士の質保証を担保する。
- 3) 学修成果の可視化および教育の質保証を図るために、各科目の到達目標とディプロマ・ポリシーの各項目について「学修成果の評価（アセスメントプラン）」を踏まえて達成度を示す。

入学者の受入れに関する方針（公表方法：藤田医科大学ホームページで公表）

<https://www.fujita-hu.ac.jp/faculty/healthcare/about.html#hdg4>

（概要）

保健衛生学部は、看護学、リハビリテーション学の各分野で専門的な能力を発揮し、医療を通じて幅広く社会に貢献できる人材を育成してきた。さらに各分野の専門的な知識や技術を教育することはもとより、心豊かな人間性と幅広い教養を育み、強い信念をもって課題に取り組む能力と人間の生命を尊重する倫理観を備え、責任感と協調性をもって患者中心の専門職連携を实践できる「医療人」を育成したいと考えている。さらに、今後見込まれる社会構造の変革に対して柔軟に対応できる人材が必要と考え、地域医療・介護福祉の教育および研究を重要な新課題ととらえている。そこで、地域ケア実践指向の「藤田医科大学地域包括ケア人材育成教育プログラム」を立ち上げ、全国初の大学発信型の「住み慣れた地域での生活継続」を可能にする人材育成モデルを構築している。このように、保健衛生学部はわが国の地域に根ざした医療、さらに保健・福祉へと幅広く貢献できる「医療人」の育成を目指す一方で、海外の医療系諸大学との人材交流を活発に進め、国際的な視野を持った「医療人」の育成をも目指している。

保健衛生学部は、本学の建学の理念に共感し、医療、保健衛生に誠実に携わることを望むものを広く受け入れる。

- 1) 医療、保健衛生およびその関係する分野に高い関心をもつもの
- 2) 心豊かな人間性と幅広い教養を育み、主体性をもって他者と協働しながら課題に取り組む志のあるもの
- 3) 大学で学ぶ専門的な知識や技術を活かして、組織や国内外の地域、社会に貢献する志のあるもの

入学試験は多様な素養を評価するため、複数の受験機会を提供する。

なお、性、人種、宗教、性的指向、社会経済的地位や身体能力は評価しない。

②教育研究上の基本組織に関すること

公表方法：藤田医科大学ホームページで公表

<https://academy.fujita-hu.ac.jp/about/outline.html#hdg3>

③教員組織、教員の数並びに各教員が有する学位及び業績に関すること

a. 教員数（本務者）

学部等の組織の名称	学長・ 副学長	教授	准教授	講師	助教	助手 その他	計
－	3 人	－					3 人
医学部	－	145 人	100 人	188 人	475 人	164 人	1,072 人
医療科学部	－	25 人	26 人	16 人	11 人	0 人	78 人
保健衛生学部	－	18 人	16 人	35 人	21 人	3 人	93 人

b. 教員数 (兼務者)	
--------------	--

学長・副学長	学長・副学長以外の教員	計
人	491 人	491 人

各教員の有する学位及び業績 (教員データベース等)	公表方法：藤田医科大学ホームページで公表 (https://www-cv01.ufinity.jp/fujitahu/)
------------------------------	---

c. FD（ファカルティ・ディベロップメント）の状況（任意記載事項）

--

④入学者の数、収容定員及び在学する学生の数、卒業又は修了した者の数並びに
進学者数及び就職者数その他進学及び就職等の状況に関すること

a. 入学者の数、収容定員、在学する学生の数等								
学部等名	入学定員 (a)	入学者数 (b)	b/a	収容定員 (c)	在学生数 (d)	d/c	編入学 定員	編入学 者数
医学部	122 人	120 人	98.4%	722 人	742 人	102.8%	0 人	0 人
医療科学部	230 人	247 人	107.4%	920 人	959 人	104.2%	0 人	0 人
保健衛生学部	250 人	282 人	112.8%	1,000 人	1,084 人	108.4%	0 人	0 人
合計	602 人	649 人	107.8%	2,642 人	2,785 人	105.4%	0 人	0 人
(備考)								

b. 卒業者数・修了者数、進学者数、就職者数				
学部等名	卒業者数・修了者数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
医学部	106 人 (100%)	0 人 (0%)	104 人 (98.1%)	2 人 (1.9%)
医療科学部	238 人 (100%)	32 人 (13.4%)	201 人 (84.5%)	5 人 (2.1%)
保健衛生学部	248 人 (100%)	10 人 (4.0%)	234 人 (94.4%)	4 人 (1.6%)
合計	592 人 (100%)	42 人 (7.1%)	539 人 (91.0%)	11 人 (1.9%)
(主な進学先・就職先) (任意記載事項)				
(備考)				

c. 修業年限期間内に卒業又は修了する学生の割合、留年者数、中途退学者数 (任意記載事項)					
学部等名	入学者数	修業年限期間内 卒業・修了者数	留年者数	中途退学者数	その他
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
合計	人 (100%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)	人 (%)
(備考)					

⑤授業科目、授業の方法及び内容並びに年間の授業の計画に関すること

(概要)

【医学部】

学生の卒業時における質の確保を図るため、卒業認定・学位方針(ディプロマ・ポリシー)及び教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)を踏まえ、当該授業科目との整合性・関連(役割)に基づいた授業計画と科目間の繋がりを示す「カリキュラムマップ」を作成、科目ごとに講義の目的を示す「教育目標」、身につける能力を示す「学修目標」および講義毎の「到達目標」、「評価方法」および「評価基準」、課題の「フィードバックの方法」、「講義形式」、「事前事後学修の時間数と内容」、「オフィスアワー」等を明示しシラバスに反映している。

シラバスの作成においては、整合性・妥当性・適切性等について教務委員長による第三者チェックを行っている。

【医療科学部】

学生の卒業時における質の確保を図るため、卒業認定・学位方針(ディプロマ・ポリシー)及び教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)を踏まえ、当該授業科目との整合性・関連(役割)に基づいた「授業計画書(シラバス)」および各授業科目間の対応関係や履修・学修における道筋を示した「履修系統図」を作成している。

また、各講義の「到達目標」、「評価方法」および「評価基準」、課題の「フィードバックの方法」、「講義形式」、「事前事後学修時間とその内容」、「オフィスアワー」等をシラバスに明示し反映している。

シラバスの作成においては、シラバスの作成方法に関するFDを実施している。また、各分野長及び教務委員にて、編集上のチェックに留まらず、カリキュラム方針に基づき各科目の内容が適正であるか第三者チェックを行っている。

作成したシラバスは、藤田医科大学ホームページ及び学生ポータルサイト(学生向け学務情報提供サイト)で毎年、年度始めに公開している。

【保健衛生学部】

学生の卒業時における質の確保を図るため、卒業認定・学位方針(ディプロマ・ポリシー)及び教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)を踏まえ、当該授業科目との整合性・関連(役割)に基づいた授業計画と図示した「履修系統図」を作成、科目ごとに講義の目的を示す「教育目標」、身につける能力を示す「学修目標」および講義毎の「到達目標」、「評価方法」および「評価基準」、課題の「フィードバックの方法」、「講義形式」、「事前事後学修の時間数と内容」、「オフィスアワー」、等を明示しシラバスに反映している。

年間授業計画については教育課程ごとにカリキュラム委員会を設置し、教育課程体系・教育課程の検証・授業方法等を包括的に検討し、上層の教務委員会に報告をしている。

⑥学修の成果に係る評価及び卒業又は修了の認定に当たっての基準に関すること

(概要)

【医学部】

学生の評価についての原理、方法および実施について、藤田医科大学学則(P8、第27条～第30条)、藤田医科大学医学部規程(P1、第5条～第7条)、藤田医科大学医学部試験に関する規程、各学年のシラバスに記載されている。

履修科目は100点満点で採点され、S(90点以上100点以下)、A(80点以上90点未満)、B(70点以上80点未満)、C(60点以上70点未満)、D(60点未満)で評価し、60点以上が合格である(藤田医科大学医学部規程第5条)。

また、履修科目の成績判定には、試験の成績に受講および実習態度を加味して判定する(藤田医科大学医学部試験に関する規程第6条)。試験の方法は筆答、口答、レポート提出、実地試問等である(同第3条)。

各科目の成績判定方法は、各学年のシラバスに明示し、各々の到達目標、評価法、評価基準に基づき学修成果を測定し、厳格かつ適正に単位を授与している。

修了の認定に当たっては、大学の教育理念に基づき、卒業認定・学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)を策定し、卒業認定に関する方針の具体的な内容及び適切な実施については、「藤田医科大学学則」および「藤田医科大学医学部規程」に則って医学部の定める授業科目をすべて履修し、卒業試験のほか医学部の指定する試験に合格した者に卒業資格を与えている。卒業試験は、その試験の難易度や、その他一切の事情等を総合的に評価した上で可否を判定する。

卒業認定に関する方針は、各学年のシラバスに明記され、ホームページ及び学生ポータルサイト上で公表している。

【医療科学部】

授業計画(シラバス)に記載している到達目標、評価法、評価基準に基づき、学修成果を測定している。

(到達目標)授業科目を学生が学修することにより成果として得られる知識・理解、思考・判断、関心・意欲、技能・表現などの面での到達目標を授業計画(シラバス)に記載している。

(評価法)授業科目の成績(評価点)は、到達目標に対する達成の度合いを示している。その度合いをどのような手法で測定するのかを表す評価手法・種別(定期試験、実技試験、受講態度、小テスト、レポート等)と、それぞれが最終評価に占める割合(%)を授業計画(シラバス)に記載している。

(評価基準)到達目標に対して、どの評価方法を用いて到達度を測るか、さらに達成の度合いを測定するポイントなどを授業計画(シラバス)に記載している。

また、藤田医科大学学則(第27条～第30条)及び医療科学部規程に則って、厳格かつ適正に評価して単位授与している。なお、履修科目は100点満点で採点され、S(90点以上100点以下)、A(80点以上90点未満)、B(70点以上80点未満)、C(60点以上70点未満)、D(60点未満)で評価し、60点以上が合格である。

修了の認定に当たっては、大学の教育理念に基づき、卒業認定・学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)を策定している。

【保健衛生学部】

授業計画(シラバス)に記載している到達目標、評価法、評価基準に基づき、学修成果を測定している。

(到達目標)授業科目を学生が学修することにより成果として得られる知識・理解、思考・判断、関心・意欲、技能・表現などの面での到達目標を授業計画(シラバス)に記載している。

(評価法)授業科目の成績(評価点)は、到達目標に対する達成の度合いを示している。その度合いをどのような手法で測定するのかを表す評価手法・種別(定期試験、実技試験、受講態度、小テスト、レポート等)と、それぞれが最終評価に占める割合(%)を授業計画(シラバス)に記載している。

(評価基準)到達目標に対して、どの評価方法を用いて到達度を測るか、さらに達成の度合いを測定するポイントなどを授業計画(シラバス)に記載している。

また、藤田医科大学学則(第27条～第30条)及び保健衛生学部規程に則って、厳格かつ適正に評価して単位授与している。なお、履修科目は100点満点で採点され、S(90点以上100点以下)、A(80点以上90点以下)、B(70点以上80点未満)、C(60点以上70点未満)、D(60点未満)で評価し、60点以上が合格である。

修了の認定に当たっては、大学の教育理念に基づき、卒業認定・学位授与方針(ディプロマ・ポリシー)を策定している。

卒業の認定に関する方針の具体的な内容及び適切な実施については、藤田医科大学学則に則って行っており、卒業要件(卒業必須単位)等、総合的に評価し、教授会において卒業認定を行い、学長に承認を得ている。

学部名	学科名	卒業又は修了に必要な となる単位数	G P A制度の採用 (任意記載事項)	履修単位の登録上限 (任意記載事項)
医学部	医学科	210.5 単位	有・無	単位
医療科学部	医療検査学科 臨床検査プログラム	125 単位	有・無	単位
	医療検査学科 臨床工学プログラム	125 単位	有・無	単位
	放射線学科	125 単位	有・無	単位
保健衛生学部	看護学科	124 単位	有・無	単位
	リハビリテーション学科 理学療法専攻	135 単位	有・無	単位
	リハビリテーション学科 作業療法専攻	134 単位	有・無	単位
	リハビリテーション学科 先進理学療法コース	130 単位	有・無	単位
	リハビリテーション学科 先進作業療法コース	129 単位	有・無	単位
G P Aの活用状況 (任意記載事項)		公表方法：		
学生の学修状況に係る参考情報 (任意記載事項)		公表方法：		

⑦校地、校舎等の施設及び設備その他の学生の教育研究環境に関すること

公表方法：藤田医科大学ホームページでの公表

(<https://www.fujita-hu.ac.jp/about/educational-info.html>)

⑧授業料、入学金その他の大学等が徴収する費用に関すること

学部名	学科名	授業料 (年間)	入学金	その他	備考（任意記載事項）
医学部	医学科	2,500,000 円	1,500,000 円	2,300,000 円	その他内訳（実験実習教材費、教育充実費）
医療科学 部	医療検査	800,000 円	300,000 円	550,000 円	その他内訳（実験実習教材費、教育充実費）
	放射線	800,000 円	300,000 円	550,000 円	その他内訳（実験実習教材費、教育充実費）
保健衛生 学部	看護学科	800,000 円	300,000 円	600,000 円	
	リハビリ テーション学科	800,000 円	300,000 円	600,000 円	

⑨大学等が行う学生の修学、進路選択及び心身の健康等に係る支援に関すること

a. 学生の修学に係る支援に関する取組
<p>1. 奨学金制度</p> <p>(1) 学校法人藤田学園奨学金貸与制度（全学部共通）</p> <p>(2) 藤田学園同窓会奨学金貸与制度（全学部共通）</p> <p>(3) 藤田医科大学医学部修学資金制度</p> <p>愛知県地域枠を志望して入学した者を対象に、本学及び愛知県から合計総額 2,010 万円の修学資金を貸与する。</p> <p>2. 藤田医科大学学業奨励奨学金給付(医療科学部・保健衛生学部)</p>
b. 進路選択に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>学生支援課にキャリア支援係を設置し、学生の就職支援を実施している。</p> <p>3 年次 6・7 月、2・3 月に就職ガイダンスを開催。就職ガイドブックの配布を行っている。</p> <p>教職員が就職実績のある全国の各施設・企業を訪問し、卒業生の定着確認、求人開拓を実施している。その他、希望者に向けた指導として個別面談（履歴書添削・面接対策等）を行っている。</p>
c. 学生の心身の健康等に係る支援に関する取組
<p>(概要)</p> <p>1. 学生相談室</p> <p>学生生活におけるさまざまな悩みの相談にカウンセラー（臨床心理士）が応じている。</p> <p>2. 健康管理室</p> <p>学生が身体に不調を感じた場合、必要であれば病院の各診療科と連絡を取り受診の手続きを案内する。「心の健康」に関しては学生相談室と連携を取って対処している。</p> <p>3. 障がい学生に対する合理的配慮の実施</p> <p>体制をあらため全学で学生に対する合理的配慮の検討・実施する運用を開始した。</p>

⑩教育研究活動等の状況についての情報の公表の方法

<p>公表方法：藤田医科大学ホームページでの公表</p> <p>(https://www.fujita-hu.ac.jp/about/educational-info.html)</p>

備考 この用紙の大きさは、日本産業規格 A 4 とする。

(別紙)

※ この別紙は、更新確認申請書を提出する場合に提出すること。

※ 以下に掲げる人数を記載すべき全ての欄（合計欄を含む。）について、該当する人数が1人以上10人以下の場合には、当該欄に「－」を記載すること。該当する人数が0人の場合には、「0人」と記載すること。

学校コード（13桁）	F123310106826
学校名（〇〇大学 等）	藤田医科大学
設置者名（学校法人〇〇学園 等）	学校法人 藤田学園

1. 前年度の授業料等減免対象者及び給付奨学生の数

		前半期	後半期	年間
支援対象者数 ※括弧内は多子世帯の学生等（内数） ※家計急変による者を除く。		148人（ ）人	141人（ ）人	152人（ ）人
内 訳	第Ⅰ区分	80人	76人	
	（うち多子世帯）	（ ）人	（ ）人	
	第Ⅱ区分	41人	33人	
	（うち多子世帯）	（ ）人	（ ）人	
	第Ⅲ区分	18人	25人	
	（うち多子世帯）	（ ）人	（ ）人	
	第Ⅳ区分（理工農）	0人	0人	
	第Ⅳ区分（多子世帯）	－	－	
	区分外（多子世帯）	人	人	
家計急変による 支援対象者（年間）				－（ ）人
合計（年間）				153人（ ）人
(備考)				

※ 本表において、多子世帯とは大学等における修学の支援に関する法律（令和元年法律第8号）第4条第2項第1号に掲げる授業料等減免対象者をいい、第Ⅰ区分、第Ⅱ区分、第Ⅲ区分、第Ⅳ区分（理工農）とは、それぞれ大学等における修学の支援に関する法律施行令（令和元年政令第49号）第2条第1項第2号イ～ニに掲げる区分をいう。

※ 備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

2. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の取消しを受けた者及び給付奨学生認定の取消しを受けた者の数

(1) 偽りその他不正の手段により授業料等減免又は学資支給金の支給を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

年間	0人
----	----

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、学業成績が廃止の区分に該当したことにより認定の取消しを受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修業年限で卒業又は修了できないことが確定	—	人	人
修得単位数が「廃止」の基準に該当 （単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が廃止の基準に該当）	0人	人	人
出席率が「廃止」の基準に該当又は学修意欲が著しく低い状況	0人	人	人
「警告」の区分に連続して該当 ※「停止」となった場合を除く。	—	人	人
計	—	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

上記の(2)のうち、学業成績が著しく不良であると認められる者であって、当該学業成績が著しく不良であることについて災害、傷病その他やむを得ない事由があると認められず、遑って認定の効力を失った者の数

右以外の大学等		短期大学（修業年限が2年のものに限り、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）			
年間	0人	前半期	人	後半期	人

(3) 退学又は停学（期間の定めのないもの又は3月以上の期間のものに限る。）の処分を受けたことにより認定の取消しを受けた者の数

退学	0人
3月以上の停学	0人
年間計	0人
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

3. 前年度に授業料等減免対象者としての認定の効力の停止を受けた者及び給付奨学生認定の効力の停止を受けた者の数

(1) 停学（3月未満の期間のものに限る。）又は訓告の処分を受けたことにより認定の効力の停止を受けた者の数

3月未満の停学	0人
訓告	—
年間計	—
(備考)	

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。

(2) 適格認定における学業成績の判定の結果、停止を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
G P A等が下位4分の1	—	人	人

4. 適格認定における学業成績の判定の結果、警告を受けた者の数

	右以外の大学等	短期大学（修業年限が2年のものに限る、認定専攻科を含む。）、高等専門学校（認定専攻科を含む。）及び専門学校（修業年限が2年以下のものに限る。）	
	年間	前半期	後半期
修得単位数が「警告」の基準に該当 (単位制によらない専門学校にあっては、履修科目の単位時間数が警告の基準に該当)	0人	人	人
G P A等が下位4分の1	24人	人	人
出席率が「警告」の基準に該当又は学修意欲が低い状況	0人	人	人
計	24人	人	人
(備考)			

※備考欄は、特記事項がある場合に記載すること。